

3学年だより

～ 今週の言葉 ～

『 幸せを与える人は美しい 』

田中澄江 (劇作家)

令和 3年 2月 12日(金) 発行 第38号



卒業生に贈る ～言葉を大切に生きよう～

君が赤ん坊だった頃、君はアーとかウーとしか言えなかった。それでも、君が死なずに済んだのはしっかりと何かを母親に告げていたからだ。君が声に出したわけのわからない音を母親は解釈し、ミルクをやったり、おもちゃを与えたりした。そして、言葉がわからないくせに、君は母親が何を言わんとしているのかを理解しようとしていた。これこそが言葉と君との付き合いの始まりだ。こうして、君は、言葉を教えられ、今は当たり前顔をして日本語を話している。母親がロシア人だったら、ロシア語を話し、母親がユダヤ人だったら、ヘブライ語を話すことになっただろう。

言葉は何のためにあるのか、君は普段どのように言葉を利用しているだろうか？

言葉を使えるおかげで君は退屈を紛らすことができるし、人を好きになることができるし、未知のものを知ることができる。それだけではない。言葉の使い方によっては、人を救うこともできるし、元気にすることもできる。逆に人を騙したり、おびえさせたり、絶望させたり、殺したりもできる。

【 中略 】

アメリカに留学していた日本人の学生が、ハロウィンの夜、平凡な市民に射殺された事件があった。留学生は仮装して、友人の家のパーティーに向かっていった。たまたま、家を間違えて、他人の家に入ろうとしていた彼を強盗と勘違いした男が自分の家族を守ろうと、銃を構え、「フリーズ (動くな)」と言った。留学生は敵意がないことを示そうとして、男に近づき、撃たれた。撃った男は正当防衛が認められた。フリーズという言葉とそれに対応する動作の食い違いがこの悲劇の背景にあると思えば、全く、コミュニケーションというものは命がけだ。

近頃、巷でよく物騒な言葉を耳にする。むかついたり、キレたりは日常的で、死ね、だの、殺す、だの軽々しく言う連中が増えている。彼らは、コミュニケーションは命がけだということを全くわかっていないのだと思う。そういう言葉を不用意に使うと、そのとばっちりが思わぬ形で自分にふりかかってくることを忘れてはならない。

風は吹きっぱなしということはない。雨は降りっぱなしということはない。雨はどこかで誰かの恨みを買うか、大喜びさせているかもしれないし、地面の奥深くに溜まり、巡りめぐって誰かの喉を潤しているかもしれない。言葉は風や雨と同様、環境を作る要素だ。風が木の枝をゆするように、雨が草の成長を促すように、どんな些細な言葉も他人の意識に働きかけているからだ。

たとえば、君が誰かに向かって、死ね、と言ったとする。その言葉は相手の意識の底に雨のように溜まり、やがて、それが恨みや憎しみと一緒に、君のもとに返ってくるかもしれない。少なくとも、自分が用いた言葉が相手の意識にどう作用するか、想像してみることに。

『中学生の教科書 死を想え』より



大人になるにつれ、人づきあいの幅が広がります。どんな言葉を選び、どんなふうに伝えるのか…、これはとても大切な問題です。人間性を鍛え、創造力を磨いて、豊かな言葉を発信できる大人に成長してください。

♪ 今週の進路情報

県立高等学校前期選抜の出願が終わり、来週15日(月)まで出願先変更の機会が与えられています。

15日(月)正午で受付が終了となります。あとは、すべてを整えて、入試に臨むのみです!!



♪ 来週の予定

15日(月)	ALT 訪問 19日まで	15:50 頃下校	18日(木)		15:50 頃下校
16日(火)		15:50 頃下校	19日(金)	卒業式練習 5校時	14:50 頃下校
17日(水)		15:25 頃下校	～卒業式練習が始まります。「感動の卒業式」を～		